

継続は力なり！ 医学部出身の作家が語る 大学生生活の思い出と作家生活



千葉大学医学部卒業 作家 結城五郎氏
(高部内科医院 院長 高部吉庸氏)

1998年、サントリーミステリー大賞を受賞した『心室細動』をはじめ、数々の医療ミステリー作品を送りだしている作家・結城五郎先生。

千葉大学医学部を卒業し、現役の医師でもある結城先生に、千葉大学の思い出、そして作家生活について伺いました。

【PROFILE】

本名 高部吉庸。1943年東京生まれ、1967年千葉大学医学部卒業。診療のかたわら小説を書きはじめ、1993年、「その夏の終わりに」（架空社刊）で第2回小谷剛文学賞を受賞。1998年、「心室細動」（文藝春秋社刊）で第15回サントリーミステリー大賞を受賞。現役の医師であり、千葉市の高部内科医院院長として今も診療を行っている。

読書と部活に明け暮れた 千葉大学での学生生活

先生と千葉大学との関わりをきっかけを教えてください。

東京の下町育ちだった私が、千葉大学を志望した動機のひとつに、高校の時にテレビでみた、中山恒明先生（元千葉大学教授）の胃がんの手術があり、と感激しました。進路を相談した高校の先生にも、千葉大学は優秀な大学だと勧められたのも大きかったです。

入学したのは昭和三十六年です。東京生まれの私にとって、初めて降り立った千葉駅は「ひなびた駅」という印象が強く、「こんな田舎で大丈夫だろうか」と心配になったのを覚えています。ところが、バスに乗って大学病院に来てみると、威厳がありずしりと重厚な建物がそびえている。その迫りに圧倒されました。

学生時代はどんな生活を送っていたのですか？

勉強は……あまり真面目な学生ではなかったですね（笑）。実習などの重要なものは出席していましたが、出欠のゆるい講義はさぼって、下宿で本を読んだり、映画を観たり……ドストエフスキー、ヘルマンヘッセ、吉川英治……とにかくいろいろな本をたくさん読みました。

部活は人形劇と剣道部。人形劇では児童施設などに慰問に行ったり、自分で脚本を作り、上演したこともありま

す。剣道は、大学三年になってから始め、「自称二段」（笑）。それでもかなり熱心をやっていたと思います。現総合安全衛生管理機構長の長尾先生とも竹刀を交えました。歯が立ちませんでしたけどね。

毎日一時間の積み重ねで 作家として花開く

その後、勤務医を経て、千葉市内で開業されたのですか。作家になったきっかけはどのようなことだったのでしょうか？

いずれは開業しよう、と思っていたので、放射線医学総合研究所でガン治療の基礎研究をしながら、週二回のアパートを借りて臨床にも携わっていました。その後、診療所で常勤として三年間勤務した後に、三十五歳で開業しました。

開業当時は、とにかく必死で診療しました。診療時間は朝九時から夜八時半まで。おかげで遠くからも患者さんが来てくれるようになり、なんとか軌道に乗りました。けれども、四十歳になって、あまりに仕事漬けの毎日に、「このままでは精神的に持たないんじゃないか、何か趣味を持たなくては」という危機感も芽生えてきました。「仕事と両立しながら何ができるだろう」と考えた時に思い出したのが、大学時代に小説まがいの文章を書いたり、人形劇で脚本を書いたこと。「そうだ、小説を書いてみよう」と思ったのです。文章教室にも足を運びました。その後、産婦人科医で芥川賞作家の小谷剛さんが主宰していた同人誌「作家」などの同人になり……少しずつ投稿するようになりました。

現役の開業医でありながら、小説家としても活躍されている結城先生ですが、両立の秘訣は何ですか？

小説を書き始めた時に、ひとつ決めたことがあります。それは「診療が終わった後、毎日夜九時から一時間小説を書く」ということです。どんなに忙しくても、一時間は必ず書く。そして、翌日の診療の妨げにならないように一時間で筆を置く。私の小説はこの一時間の積み重ねです。

『心室細動』は原稿用紙にして五百枚の長編でしたから、書き上げるまでに



患者さんの中には、医院に来て本を買う人もいます。

三年の月日を要しました。

その『心室細動』は、第十五回サントリーミステリー大賞を受賞されました。

世の中にはさまざまな文学賞がありますが、芥川賞や直木賞の場合、選考委員は料亭などで選考を行い、後に記者発表となりますが、サントリーミステリー大賞は公開選考でした。選考委員も、夏樹静子さん、北方謙三さん、栗本薫さんなどそうそうたるメンバーです。その先生方が自分の作品をけちよんけちよんにけなすのを、一番前の席で聞かなくてはならない。ただ一人、長部日出雄さんは「うっすらと涙がにじんだ」と激賞してくださいました。この年は、選考委員の票が割れて、決選投票になったのですが、あるうことか、もう一度作品についての批評が始まったのです。「まいった、まいった」と思いながら聞いていた……私の作品が大賞に選ばれたのです。その差、一票。最後にゆっくりと手を挙げた夏樹静子先生の姿は、今でも目に焼き付いています。自分に新しい道が示された瞬間でもありました。

先生の作品には、「これは、千葉大学かな？」と思うような描写が出てきますか？

小説を書き始めた頃に、「自分の得意な分野で勝負しろ」というアドバイスを受けたこともあり、私が書く小説は医療を舞台にしたミステリーです。やはり、自分の身近なことを題材にすることで、細かな描写に信憑性が出てくるのでしよう。私自身、千葉大学以外の医学部を知らないのですから、大学を書く時にはやはり千葉大学が思い浮かびます。大学以外で

も、千葉の街が出てきたりするので、「ここはあそこじゃないか」といった読み方、楽しみ方もあるかもしれませぬ。

厳しい時代だからこそ 千葉大生に期待！

最後に、千葉大生にメッセージを。今の学生さんは就職活動が厳しく、なかなか自分の時間がとれないことだと思います。時代とはいえ、かわいそうだな、と思うこともしばしばです。そんな皆さんに、厳しいかもしれませんが三つの言葉を贈ります。一つは「少年老いやすく、学成り難し」。優秀な千葉大生の皆さんだからこそ、「お勉強」ではなく、「真の教養」を身につけてください。若い時に本を読み、知識を深め、見聞を広げることが、今後の皆さんの力になります。二つめは「継続は力なり」。石の上にも三年、五年、十年と我慢して努力すれば少しずつ目標に近づいていくものです。どんな目標を定めても継続をやめたらそれまでです。皆さんには、継続することの大切さを知っていただきたい。三つめが「世のため人のため」。私利私欲に走るのではなく、若い人こそ、世のため人のため、が行動の基準になって欲しいと思います。厳しい、難しい世の中ですが、どうか頑張ってください。

力強い言葉の数々、ありがとうございました。



これまで出版した本の数々。左下の「なっとう」はイラストレーターの弟さんと共につくった絵本。

Point 1

私の就活、キャッチフレーズをつけるなら？

- 「あはれいす、くらす、あきあきめす」それから友達のお前は受かるという言葉が支えに。(美谷島)
- 「答えはなくて、答えを言いつつ」。質問に返答するのではなく、意図をつかむことが重要。(天野)
- 「切り替えが大切。敗れて何もしない日を作って、就活の間のモチベーションを保った。(飯森)
- 「人の足を止めるのは絶望ではなく諦めた。40社に1社受かればよいと言われていたので、まずは40社を受けようと思った。(岡田)
- 「かっぴんじやねえ」。私のエントリーシートを見た友達の言葉。自分を良く見せようと気取り過ぎていたことに気づき、素の自分を出すことにした。(南)
- 「考えるよりもまず行動」。3年生の時は進路の方向性が漠然としか決まっていなかったため、行動しながら考えるようにした。(吉田)
- 「次があるんだ、他があるんだ。落ちた時でも次があると考



Point 2

気合いと根性はやっぱり効果的！体育会的なアピールをした？

- 自力でお金を貯めて、すべて自分で手配して海外留学に行ったことをアピール。(岡田)
- 8年前に来日したので、それまでの努力と、来日後の努力をアピール。(金)
- ライバルが大学の体育会をアピールしたので、高校までやっていたラグビーをアピールして対抗した。大学でやってみてもアピールできることはある。(戸森)
- 体育会出身だったので体力をアピール。仕事になれば、体力勝負の時期もあるのだから効果的だったと思う。(山田)
- 学園祭実行委員を3年間行ったことの実績と経験。(飯森)
- 毎日ジョギングをしていることをアピール。(南)
- 「来年にはホルノルマランにも出たい」と宣言。(南)
- 高校が弓道、大学で茶道をしていたので、和風押しと正座がずっとできることをアピール。(吉田)
- 「人倍礼儀正しく、人倍遠慮なく」の人付き合いの雰囲気を出した。(大野)
- 説明会に何度も足を運んで顔を覚えてもらうようにした。(泉澤)

Point 4

勝ちに不思議な勝ちあり？今でもわからない勝手の理由。

- 採用担当者に「グループディスカッションが苦手ですが、どうすれば上手くなりますか？」と聞いて教えてもらった経験あり。なんとその会社から内定が。(岡田)
- 民間企業を受けた時に、製品についての意見を求められて「まだ勉強不足でわかりません」と答えたのに通過。知らないことは「まかさないのが良いのだ」と思った。(三村)
- 面接で強烈なダメだし。もう落ちたと思ったが、粘って返答を続けていたら、その試験は通過した。熱心さがカギ？。(戸森)
- 通過したすべての試験が、なぜかと思わず。(南)
- 部屋を出た瞬間に号泣するほどの圧迫面接に、なぜか通過。困った時の対応を見られていたみたい。(泉澤)
- 「同業他社と当社との違いを説明して」という質問に「さあ、さあ、さあ」ともなげか合格。(三村)
- グループディスカッションでアイデアが浮かばず、あまり発言ができなかったけれど、その試験は合格した。(平間)
- 想定外の質問に詰まって、沈黙してしまっただけで、合格。今思えば、準備した答えではなく、相手の言葉に耳を傾けて真摯に答えたことが良かったのかも。(山田)

Point 5

インターンシップ、役に立つ？

- 2日間のインターンシップで、1日パソコンに貼り付けて仕事をし、これは無理だと思った。やりたくないことではなく、やりたくないこと、できないことが見えた。(三村)
- 1泊2日のインターンシップで模擬取材。そこで働く女性を見て、自分が働くイメージがわいた。(南)
- 3月、4月に公務員のインターンシップ有り。3年の時からチェックしておくといいです。(泉澤)
- インターンシップに参加してその後の試験が受かれば内定確定、と言われていたけど、実際はそんなことはなかった。氷河期です……。(吉田)
- 半日のインターンシップで、金融業界に希望職種を絞ることができた。インターンシップで自分のやりたいことが見えた。(平間)

Point 6

やっぱり千葉大でよかった！先輩、先生、皆に大感謝！

- 既卒だったけど、就職支援課は週に2〜3回行って、相談のこともあった。情報収集だけでなく、着詰まったときに気持ちよく着替えるためにも活用できる場所だと思う。(美谷島)
- 内定先の役員面接に千葉大OBが。とても心強かった。また経済人にも千葉大OBが多いので、評価の高さを感じた。(金)
- 希望企業の人事者がOBで、細かい情報を教えてくれた。地方にも千葉大のネットワークがあることにびっくり。(飯森)
- 研究室の先生が、OBの方たちとの座談会を設けてくれて、自分の方向性を決めることができた。(佐伯)
- 面接官が千葉大OB。試験面接は5分くらいで、後は就職後の仕事の話をたくさんしてくれた。(平間)
- ゼミでの先輩のアドバイスと、予備校のチューターのアドバイスが丁寧で、とても助けになった。(泉澤)
- 説明会でOBの方を探してメルアドを交換。試験の傾向や面接の対策まで細かいアドバイスをいただいた。(南)
- 学部卒の教員採用試験に受かった友人から、持ち物や面接の雰囲気などを聞くことができた。慌てずに入念な準備ができた。(大野)
- OB訪問で出会った方いろいろと相談していたら、「正直、うちの社風に合わないと思う」と言われた。その一言で切り替えて次に向かうことができた。(戸森)
- 休学で30日のつながりが薄くなっていたので、とにかく就職支援課を利用。キャリアカウンセラーのひととの面談が、自信をなくした時の救いになった。(岡田)

Point 3

面接官が思わず身を乗り出した、自己PRのキモはココ！

- 「面接の達人」に晩でも語れる何かをもちこくと、あつたので海外留学の経験をとにかくPR。(岡田)
- シブリングサークル。他の人と違うことをやっていると、とても興味を持ってもらった。(三村)
- ボランティアで行っていた「放課後子ども教室」とチューター活動。待機児童の解消に力を入れている自治体だったので、うまくいった。(美谷島)
- 新聞を取っていないことを突っ込まれた時の「ニュースの情報は飲み屋です」の一言。さまざまな人と交流している教えてもらえる人物であることを知ってもらえた。(天野)
- アルバイトを3つ掛け持ちしていたこと。たまたま面接の後にもアルバイトが入っていて「働き者だね」と感心された。(南)
- 学園祭で出店した時の話。店の企画や構成、売上金額や来店者数を増やす工夫など、経営的なことを話した。(三村)
- 理学部の学部祭のリーダー実行委員としてリーダーシップを発揮した。昨年対比で来場者数が増えたこと、果もアピールした。(平間)
- 3年間頑張ったアルバイト。厳しい飲食店で辞めることなく3年継続できたことが良かった。(戸森)
- 学園祭実行委員の仕事について。グラフィックソフトでポスターを創るなど、より具体的なことを話すと興味を持ってもらえた。(飯森)
- 部活でリーダー的存在だったこと。自分は他人を引っ張るわけではないけれど、伝統とノウハウを伝える存在だったことをアピール。(山田)

ポイント!

氷河期?



就職支援課から

このたびは、座談会に参加いただきありがとうございます。みなさんからいただいた貴重な経験談は、これから就活を行なう学生にとって大変有益なものです。卒業(修了)後は、千葉大学在学中に学んだこと、経験したこと、誇りを持ってご活躍ください。

現在就活中の皆さんは、自分は何がしたいのか、何ができるのか、社会人としてどのように成長していきたいのかについて考えを深め、千葉大学に寄せられた求人票などを参考に業界研究、企業研究を進めてください。なお、厳選採用を行う企業が多い中では、知名度や憧れだけで有名大手企業のみを志望してもなかなかうまくいきません。B to B(企業間取引)を主体とする企業なども含め志望業界や業種を幅広く捉え可能性を広げることが重要です。また、就活上の悩みや疑問は一人で抱え込まず、ここに寄せられた先輩の貴重な経験などを参考にするとともに、各部署(就職担当教員など)や先輩に加え、ぜひ就職支援課にも相談してください。就職支援課は皆さんの就活をサポートします。



岡田 伊世 大学院融合科学研究科 (タカフーズ株式会社)
 飯森 慎哉 法経学部 (株式会社岩手銀行)
 平間 宏明 理学部 (株式会社みずほフィナンシャルグループ)

やっぱり数は重要です！
必勝の力ギは足にあり？

- 公務員のみ4カ所。居住地でない所も興味があれば電話をして、仕事内容の質問をしたり見学に行った。(美谷島)
- エントリーシートも訪問数も38。電車の中でエントリーシートを書いたことも。(岡田)
- 3年9月から活動開始。会社説明会は50〜60社、エントリーシートは20社、面接は20社とたく足運びを心がけた。(金)
- 会社説明会は30〜40社、エントリーシートは20社くらい。就職活動はけっこうお金がかかるので、事前の準備も大切。(戸森)
- エントリーシートは40社、会社訪問は多いときは週に5日、1日2〜3社。交通費がすくなくて、1カ月に2万5千円以上になったことも。(飯森)
- 地方も受験したので、多い時は月の1〜3は移動。飛行機、新幹線、夜行バスの移動で月の交通費は10〜20万円に！(南)
- エントリーシートは100社。春休みはほぼ毎日会社訪問。多い時は1日3社掛け持ちした。(三田村)
- 行きたい会社だけだったのでも、エントリーシートは3社のみ。その代わり、説明会とは同じ内容でも毎回参加し、顔を覚えてもらうようにした。(吉田)
- エントリーシート40社くらい。どこに自分の希望に合う会社があるかわからないから、知らない会社にも積極的にアタックした。(山田)
- 志望の業界のみに絞って、30社。業界内はほぼ出した。(佐伯)



就職氷河期と言われる昨今、見事に内定を勝ち取った方々に集まっていただき、ご自身の就活を語っていただきました。これから就活の時期を迎える人は必見のコメントが盛りだくさん。ぜひ参考にしてください。

就活ココが

就職はホントに千葉大生



後輩の皆さん、
こんな失敗はしないで……
私の懺悔集

- エントリーシートを書くのが間に合わず、夜12時が最終集荷の千葉中央郵便局まで自転車を走らせ、なんとか間に合った。(岡田)
- ネット経由のエントリーシート提出で、申し込みボタンを押したのが23時59分！ギリギリでした……。(三村)
- 想定質問を丸暗記していったら、面接で緊張して、気づいたら別の会社の話をしていた……。(金)
- エントリーシートの書き方。自己判断で書いていたけど、後から一般的な書き方があると知ってびっくり。いろいろ不備があったかも。(山田)
- 電車の人身事故で時間に遅刻！都内の公共交通機関は意外とあてにならないです……。(飯森)
- ストレスからお菓子を食べてしまった。(泉澤)
- フーって友人のスーツを借りたけど、今度はフカフカ……。(南)
- 面接をギリギリの時間でピックアップすることに。1社目は時間が気にならずに2社目は遅刻。結局両方落ちました……。思い切った切りかえの勇気も大切です。(佐伯)
- 朝の準備でスーツにハミガキ粉が！慌ててこすったけどシミに！面接中も気になって、その会社は落ちました。(三田村)
- 「懇親会があるから来てください」と言われたら、実は試験。しかも圧迫面接だった……。(平間)
- 3年の4月から公務員試験の勉強を始めたのに、学部の研究が面白くなると、試験対策に本腰を入れたのは4年の4月。研究との両立がキツです。(泉澤)



なぜそれを聞くの？
思わず黙ってしまった意外な質問

- 公務員試験で「あなたの知っている課を、働きたい順に挙げて」と言われて、12〜13科目に「どうしてそこで働きたいの？」と聞かれた時。思わず絶句。(美谷島)
- 「今まで決まっていなかったのは何故？」と聞かれました。(岡田)
- 自動車関連ではない会社で、「どんな車に乗りたい？」と聞かれて「エコカーが良いです」と答えたら、「若者はスポーツカーだろ」と言われた。(戸森)
- 「人生に勝ち組と負け組があるとして、君は何対何で勝っているの？」という質問。今だに質問の意図がわからない……。(山田)
- 新聞を取らないことへの突っ込みと、脳死や普天間基地問題などに関する自分の信条を聞かれたこと。政治・宗教的なことは難しいです。(天野)
- 3対3の面接で、「僕たち3人を笑わせるような、何か面白いことをやってみて」と言われた。(南)
- 友人から聞いた話では、「当自治体に関する川柳を作ってください」という面接があったらしい……。(泉澤)
- 「サラリーマンって何ですか？」という質問と「理想の社会って何だと思えますか？」という質問。(三田村)
- ネガティブ発言をしないように気をつけていた時期に「大学生活でイヤだったことを挙げて」と言われて絶句。(金間)
- 面接当日の新聞に、その会社の情報が3行だけ載っていたらしく、その内容は何かを聞かれた。朝が早くそこまで見ていなかった……。(飯森)

こんな資格が役に立つ、
これはやっぱり必須でしょう！

- 運転免許。私の場合は資格よりもボランティアなどの経験が重視されているように思った。(美谷島)
- 学芸員と教員免許、運転免許、TOEIC。TOEICは点数が低くても、努力しているところが見せられる。逆に教員免許は民間企業受験には「どちらが本命なの？」とちょっと印象が悪いかも。(岡田)
- 資格も重要だけど、その資格で自分が成長できたという証がなければあまり意味がないと思う。(三村)
- ビジネス日本語検定と、秘書3級、2級。留学生は自分が日本のビジネススマイルを身につけているアピールできる方がよい。運転免許も必須。(金)
- 薬剤師と運転免許。薬剤師試験は私立に比べて千葉大は弱いが、取った方がよい。また、運転免許は持っていないとエントリーできない会社もあった。(山田)
- 漢検2級は筆記試験で役に立った。また、ニューズ検定は面接の時の話のタネに。(南)
- 公務員は運転免許が必須と言われました。また、法学検定は面接の時の話のタネに。(泉澤)
- 運転免許。しかもAT限定じゃない方がいいと思う。(飯森)
- 漢検準1級、英検2級、TOEIC。アピールというよりも、最低限の教養がある人間だとわかってもらえる。(平間)
- 運転免許。特に地方の会社を受ける人は必須です。(吉田)



ずばり、
就活の必須アイテムは？

- カロリーメイトなどの携帯食。面接は12時、13時からいから始まることもあります。(美谷島)
- ゼリータイプの携帯食とコピー用紙のビタミン剤。外では歯を磨くことができないのでガムも必須。あとはiPhoneがあること、外出先からも説明会の予約が取りやすくて便利。(岡田)
- 1カ月のカレンダーと1日の書き込み部分が多いタイプのスケジュール帳。(金)
- 普通のノート。どこに行ってもメモする必要があるし、考えをまとめる時にも役立つ。(戸森)
- 床に置いた時に立つかばんは面接の時に便利。さらに
- 口がファスナーや磁石できちんとは閉じるタイプなら完璧！(天野)
- 時間が縦になっている(バーチカルタイプ)の手帳。スケジュールが一目で確認できるし、移動時間も書き込めるので便利。(飯森)
- 説明会でもらった、会社のネーム入りのアイテム。モチベーションを上げるのに最適。(吉田)
- リップ、グロス、チークとストックングの替えは必須。(南)
- 赤いネクタイ。自分の場合は願掛けだった。(佐伯)
- 腕時計。もちろん派手なデザイン製の高いものはNG！(泉澤)

座談会参加メンバー紹介

- 三村 恵華 理学部 (東京都教員)
- 南 佳子 文学部 (株式会社読売新聞 西部本社)
- 美谷島 香 教育学部 (既卒) (江戸川区役所)
- 天野 孝太郎 大学院教育学研究科 (長野県教員)
- 三田村 龍典 工学部 (株式会社ADEKA)
- 戸森 哲也 工学部 (株式会社フジクラ)
- 佐伯 淳二郎 大学院医学薬学部 (大日本住友製薬 株式会社)
- 山田 遼太 大学院医学薬学部 (薬剤師 (千葉県専門技術職))
- 吉田 元 工学部 (浜松ホトクス 株式会社)
- 金 美蘭 法経学部 (鬼怒川ゴム工業 株式会社)
- 泉澤 夢貴 法経学部 (浦安市役所)

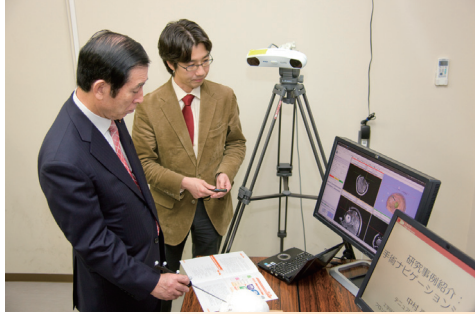
高木文部科学大臣が来学！

平成22年11月12日（金）に高木義明文部科学大臣が来学されました。ご多忙の中での訪問となりましたが、齋藤康学長との懇談の後には西千葉キャンパスの各施設を視察されました。

最先端の研究設備や講義室などを精力的に見学した行動派の高木大臣、大学関係者の説明に熱心に耳を傾ける姿が印象的でした。



防犯などへの活用が期待される無人ヘリコプターを手に取る高木大臣（写真中央）



手術ナビゲーションシステムに関心を寄せる高木大臣



内視鏡手術のシミュレーションを体験



生産現場での活用を目的に研究が進められる双腕ロボットを熱心に見学（写真中央）



留学生と懇談する高木大臣



大学関係者との懇談



ラモス瑠偉さんもやって来た！

平成22年11月17日（水）に行われた学生支援GP事業の講演会に、サッカー解説者、元日本代表選手のラモス瑠偉さんと、株式会社エス・シー・エス代表取締役、フクダ電子アリーナ名誉会長の木之本興三さんが来学されました。

ラジオパーソナリティー、スタジアムDJの酒井道代さんに司会をお願いした今回の講演会。Jリーグの創成期に日本を代表するプレイヤーとして活躍されたラモスさんと、同時期にJリーグの理事として尽力された木之本さんによる楽しい対談となりました。

最初に登場した木之本さんが紹介する形で颯爽と壇上に現れたラモスさん。

Jリーグ発展の象徴とも言うべきラモスさんが恩人と慕う木之本さんとの出会いは、日本サッカーリーグ（Jリーグの前身）時代まで遡るとのこと。発端はなんとラモスさんのラブプレーに対する出場停止処分をめぐる争いからなのだそうです。その後も選手とフロントとして直接関わることも多く、ブラジルから日本に帰化したラモスさんの義理人情や熱い心は、木之本さんとの交流で培われたと言っても過言ではありません。



学生へ熱いエールを送るラモスさん（中央）と木之本さん（右）

時折りジョークを飛ばしながらのラモス節は絶“口”調。ご自身と元日本代表選手・中田英寿さんとの違い、夢を叶えるための気迫、自分を支えてくれる仲間の大切さ、アキレス腱断裂での入院と現夫人との出会い、その大怪我からの復帰、U-15・16の育成体制への苦言、W杯での岡田采配への賞賛、釜本さんの時代の日本サッカーなど、軽妙なユーモアをまじえながら会場の爆笑を誘いました。一方で学生たちに向けては真剣な表情でエールを送り、その熱意に会場もぐんぐんと引き込まれ、あっという間に1時間半が過ぎて行きました。

現在はビーチサッカー日本代表監督として活躍するラモスさんの次なる目標は、世界に通用するチームづくり。「いつか日の丸を背負って、日本人としての誇りを持って世界と戦ってみたい」と熱く語る瞳が印象的でした。

日本人以上に日本を愛し、日本サッカーを心から思い、生まれ変わっても日本人でありたいと語るラモスさん。大和魂を持ったナイスガイに大いに魅せられた、素敵な講演会となりました。

千葉大学広報誌「CHIBADAI Press」マスコットキャラクター募集！！

「CHIBADAI Press」では、より親しみやすい誌面づくりのためにマスコットキャラクターを募集します。最優秀作品は、「CHIBADAI Press」のキャラクターとして、誌面に登場します。そんなキャラクターの「生みの親」になる名誉が与えられるチャンス！素晴らしい作品のご応募を、心よりお待ちしております。

- 【応募資格】 千葉大学の学生と教職員
- 【募集期間】 2011年1月末日（消印有効）
- 【選出方法】 広報担当理事を中心とした選考委員会において厳正に審査し、選出します。

お問い合わせ先 企画総務部総務課広報企画室
TEL：043-290-2018
E-mail：bag2018@office.chiba-u.jp

応募方法など詳細は千葉大学ホームページに掲載しています。締切間近！



整備の行き届いたフランス式庭園

松戸キャンパスの美景の番人！

広大な緑のキャンパスと言えば園芸学部のある松戸キャンパス。松戸市民の散歩コースとしても人気の高い名所も、その美しさを維持する人たちのサポートなしには成り立ちません。

今回はこのキャンパス内の環境整備、つまり植物や樹木の保全をおこなう高橋宏さん、大久保昇さんにお話を伺いました。

環境整備の仕事の最大のキモは「スピード感」と言う高橋さん。13年のキャリアを持つベテランで、毎日広大なキャンパスの手入れを行っています。一方、一級園芸装飾技能士で現役の植木職人でもある大久保さんは、週に2日の勤務で高橋さんとともに手入れを行っています。

表示も何もない1本の樹木が、実は日本に1本しかない珍種であるなど、深く知れば知るほど楽しみ方も増える松戸キャンパス。特にフランス式庭園は、木々1本ずつを丁寧に手入れしており、素晴らしい造園技術を身近に見ることができます。また、それ以外にもロックガーデンや群生するつつじなど、四季折々の美しさは、学生のみならず訪れる人の心を癒す、キャンパスの象徴でもあります。

今後は珍しい植物にはネームプレートを付けて、学生や地元の方々など、誰でも名前を知ることができるようにしたいと希望を語るお二人。そんな高橋さん、大久保さんからお願いがあります。

キャンパスを利用する方々にマナーを守っていただきたいとのこと。かなり大きなゴミでも平気で捨てていく人が後を絶たず、美観だけでなく樹木にも悪影響があるのだそうです。

東京近郊でありながらゆったりとした気分のできる松戸キャンパス。この貴重な緑の資源を、プロお二人のご協力をいただきながら、皆で守っていきたいと思います。100年後の私たちのキャンパスに今と変わらぬ美景を残すために。



高橋宏さん（左） 大久保昇さん（右）

CHIBADAI Press アンケート

読者の皆様のご意見を今後の企画・編集に活かし、充実した内容でお届けするためアンケートにご協力をお願いします。

<https://chibadaipress.kappe.jp/> (PC、携帯共通)

